

## 今日のシライ中

## 本の翼

白井中学校図書室から VOL.32

先日、2年生で行われた道徳の授業。その中のキーワード、「空気を読む」に焦点を当て、少し刺激的な本、2冊を紹介します。

## 『超訳 こども 「ニーチェの言葉」』 齋藤 孝

サブタイトルは、「絶対に負けない強い心を手に入れる！」です。絶対負けないんだから、頑強で折れない心を作らねば、と思ったあなた！そんなことはありません。例えば、台風に倒れる巨木はあっても、倒れるコスモスは、そうはないのです。この本は、そんなコスモスのような「しなやかな強さ」を自分の内側に見つけるヒントをくれる本です。中から一つ紹介します。『おのれ みずからを愛することを学ばなければならない！』ニーチェは、他のだれでもない自分の人生をしっかりと生きるために、自分で自分を愛することを学ばなければならないと言ってるんだ。「どんなときも、きみはきみの味方でいよう」そう齋藤先生は解説します。他にも『よい趣味でも、悪い趣味でもない。ただわたしの趣味なのだ！』『まず大胆にきみ自身を信じるがいい。きみ自身ときみの内臓（自分の体の内側からわき上がる声）を信じるがいい。自分を信じないものはウソをつく！』等々。こどもにも読んでもらえるよう、全ての漢字にルビが振ってあります。（一つの話が2ページ、字も大きく、読みやすい本です。）



## 『嫌われる勇気』 岸見 一郎 ・ 古賀 史健

心理学者「アドラー」の教えをわかりやすく、対話形式の物語で進めるこの本は、発行当初から爆発的に支持され、現在も版を重ねる本です。傍らに置き、気になったときに気になったタイトルの個所を読む、そんな読み方でもいいと思います。アドラー心理学は、「どうすれば人は幸せに生きることができるか」という問いに、「きわめてシンプルかつ具体的な“答え”」を提示します。と本書にあります。物語の冒頭は、書齋を訪れた「自分に自信が持てず、強い劣等感を持っていた。過剰なほど他者の視線を気にしてしまうところがあった。いつも自己嫌悪に陥っていた。」青年にとって「哲人の主張はすべてが絵空事でしかなかった。」と始まります。例えば、その中の1タイトル「ほんとうの自由とはなにか」『…哲人：おそらく承認欲求（他者から認められたいという欲求）は自然な欲望でしょう。では、他者からの承認を受けるために坂道を転がり続けるのか？転がる石のように自らを摩耗させ、かたちなきところまで丸みを帯びていくのか？そこでできあがった球体は、「ほんとうのわたし」だといえるのか？そんなはずはありません。』さて、青年はどう反応するのでしょうか？



いずれの本も新しい見方・考え方を示してくれる本です。ドクターX、大門先生の芯のある優しさと強さは痛快で、多くの支持を集めます。本当は、そうありたい、とみんなが思っているからかもしれませんね！